

## 北海道支部第16回夏季大学開講のお知らせ

— 気象講座「新しい気象」 —

日時：平成10年7月29日（水）、30日（木）

午前10時～午後3時

場所：札幌市青少年科学館（第1日目）  
（JR・地下鉄東西線「新札幌駅」下車）  
札幌管区気象台（第2日目）  
（地下鉄東西線「西18丁目駅」下車）

参加費：850円

対象・定員：一般（高校生以上）50人

申込み方法：往復はがきに講座名「新しい気象（朱書き）」住所・氏名・電話番号・返信宛名を明記し、お申し込みください。

但し、申込み多数時は抽選とします。

申込先：〒004-0051

札幌市厚別区厚別中央1条5丁目  
札幌市青少年科学館「新しい気象」係  
TEL：011-892-5001

申込締切：平成10年7月20日（水）

問い合わせ先：〒060-0002

札幌市中央区北2条西18丁目  
札幌管区気象台内  
日本気象学会北海道支部  
TEL：011-611-6121（内線415）

編集後記：「いったい、何人の方がこの編集後記を読んで下さるのか」。数年に一度のこの機会を与えられた担当者は誰でもふと、そう考える。編集後記には他の論文、解説、気象談話室、カラーページなどのような新鮮さはない。目を通して下さるのは、おそらく「天気」の熱烈な愛読者の方、次の編集後記担当者、……。とにかく、このおまけ（編集後記）を読んで下さる方はほんのわずかだと推測される。学会会員の皆さんは忙しい。その「忙しい」ということについて、少し述べてみたい。

「心」と「忙」。この2つを左右に並べると「忙」、上下に並べると「忘」になる。「仕事の忙しさに紛れて、学会の業務を忘れていました」。この言い訳は漢字の成り立ちから考えると、「原因＝結果」となり意味をなさない。常に禁句である。例えば、「私には学会より重要な仕事がありますからね」と念を押すことになるからだ。英語では「ビジネ」がなければ「ビジネス」は存在しない。ビジネスマンは忙しいのが普通で、「忙しい」

は言い訳にならない。

天気の会計を担当して1年。仕事と両立させての担当業務に四苦八苦している。日々、「忙しい」という禁句が喉元まで来るが、じっと耐えている。会計を担当していて、一番うれしいのは、稿料を送付した際、礼状が含まれている時。「どうもありがとうございました」という手書きの言葉が心にしみる。「どんなに忙しくても、暖かい思いやりの行動を忘れてはいけないんだよ」と人生を教えられる。常に社会全体のことを考える広い視野を持ち、自己に厳しく生きていきたい。

何はともあれ、御多忙中、この脱線した編集後記に目を通して下さった方に心から感謝したい。

（木下 仁）

追記：「学位論文紹介」の投稿要領が変わりました。詳しくは382ページをご覧ください。

（「天気」編集委員会）